

# 伝統は単数か複数か？

## ——モンゴル馬頭琴伝統音楽

かみむら あきら  
上村明

東京外国語大学非常勤講師

二〇〇三年、無形文化遺産保護条約がユネスコ総会で採択され、「人類の口承および無形遺産の傑作」は無形文化遺産とよばれることになった。それによって地方の芸能も脚光を浴びたが、同時に、中央と地方の関係やナショナルリズムも浮き彫りになった。

### ナショナルな伝統と

#### 地方の伝統

「どつして『伝統』が複数形なんだ！」。モンゴル国ユネスコ国内委員会の事務局長が、計画書を見て叫んだ。彼は元教育大臣の実力者である。

二〇〇五年、「馬頭琴(ばとうきん)伝統音楽」のユネスコによる「人類の口承及び無形遺産の傑作」宣言を受け、日本政府がユネスコ信託基金を拠出して、伝統を保存・継承するプロジェクトが実施されることになった。わたし



現代の馬頭琴。  
表板は十字孔のある木板

は国際コンサルトンつまりは日本の税金の用途のお目付け役として参加していた。その最初の会議のことだ。彼は、わたしの計画書に“local traditions”と伝統が複数形で書かれていることを問題とし、馬頭琴の伝統

は、単数形の“the Mongolian national tradition”(モンゴル「国民伝統」)であり、「滅びるにきまっている地方の伝統に金をつかうな」と無駄だと断言した。もちろん、「伝統」には、さまざまな「伝統」がある。国立

馬頭琴交響楽団が代表する単数形の国民伝統は文句なく素晴らしいし、ロックとのフュージョンなど新しい馬頭琴の伝統も生まれつつあった。しかし、数年前実施されたユネスコ調査の結果、モンゴルには地域に根づきしかも高度な芸能がまだまだ存在するということがわかっていった。それに、不十分ながら政府の援助がある国民伝統に対し、地方は、一九九〇年代の市場経済化以降、経済的に疲弊し、文化活動を支えてきたインフラも

崩壊にちかい。

それでも元大臣が単数の伝統にこだわるのには理由があった。

現在でも多くの国民が、ユネスコ無形文化遺産への馬頭琴音楽の登録を、「モンゴル国が馬頭琴の『パテント』(特許)をとった」と表現する。倍音唱法ホーミーをめぐることも、ロシア連邦トゥバ共和国と中国との三つ巴(さんぱ)の元相争いがあった。「伝統」を複数形にすると、中国内モンゴルの馬頭琴がはいる含みがある。

さらに大きな理由も後に判明した。翌年開催予定の国民祭典「モンゴル建国八〇〇年祭」は、堺屋太一氏が総合プロデュースをてがけ、日本から観光客を動員することが計画されていた。その目玉となるのが、国立馬頭琴交響楽団を中心とする八〇〇人の馬頭琴合奏だった。日本の信託基金は、そのための動員と練習の資金とみられていたのだ。

### 「伝統芸能」と「本物の芸能」

民衆の識字率のひくかったモンゴルでは、芸能は、革命と社会主義国民国家建設のため重要な役割を担わされてきた。文化の発展は伝統と革新の二語で語られてきた。伝統は革新を内包に含む動的な概念なのである。馬頭琴には六〇年代にバイオリンを参考に楽器の改良が加えられ、ソ連ロシア式のプロ奏者養成制度ができた。こうして新社会主義国民文化の創造が目指されたのだ。その延長線上に、一九九二年創設のモンゴル国立馬頭琴交響楽団はある。

一方で、八〇年代には古くから土地に「根ざす」芸能が注目されるようになり、西洋化した伝統芸能と区別して、「ヤズゴール(根元)・オルラグ(芸能)」と名づけられた。この語を造語した民俗音楽学者J・バドラーは、英語に訳すと“authentic folkart”にあたるという。つまり古いものが「本物」なのであ



ひな段の下に地方の演奏者が並んだ。指揮はバトチョローン氏

る。現在、モンゴル国がユネスコに登録した二一の無形文化遺産のうち五つがモンゴル西部の芸能である。西部は文化的に遅れた地方として長年差別されてきた。その後進性によって、逆に「本物」のモンゴル基層文化として評価されたのだ。

フェスティバル・コンサートは「伝統」の縮図となる

その後、プロジェクトは、さまざまな思惑を含みながらも、地方を切り捨てることなく進行

した。が、中央のプロと地方のアマとに位置づけられたふたつの勢力はとかく対立した。中央のプロ演奏家たちは、上から視線で地方での伝承に西洋式の楽譜を押しつけようとし、地方の伝承者たちは彼らを自分たちの文化の襲奪者(せんたつしゃ)と非難した。そして、プロジェクトの集大成となるフェスティバル・コンサートを迎えた。会場のスフバートル広場では、国立馬頭琴交響楽団が上段、アマ奏者が下段に並び、同楽団長が指揮をとって、「国民伝統」の馬頭琴スタンダード曲が合奏されて大団円となった。

この光景は、ふしぎと両者の関係を象徴していると、わたしは思う。両者は、対立しながらも、じつは補完しあっている。商品として世界に流通する前者の高い芸術性は、後者が「本物」であることによって、モンゴルの伝統として裏書きされているのだ。

